

平成26年度第2回市民ボランティア講座開催要綱  
ステキな映画上映会  
～ぼくはうみがみたくなりました～

1. 目的 誰もが安心して暮らせるまちはそこに住む全ての住民の願いであり、そのまちづくりの一役を担う存在としてボランティアの力は必要不可欠です。  
そこで、年間全4回の開催を予定している本講座をとおして、市民がボランティアに関する知識や想いを深め、ボランティア活動の活性化や新たな活動の創出を図ることを目的として開催します。
2. 主催 名寄市社会福祉協議会／名寄市ボランティアセンター
3. 共催 名寄市／社会福祉法人名寄みどりの郷／北海道社会福祉士会道北地区支部
4. 後援 (予定) 社会福祉法人道北センター福祉会／NPO法人名寄心と手をつなぐ育成会  
株式会社キートス／株式会社ギグルス／株式会社ファロ
5. 協力 美瑛町社会福祉協議会
6. 日程 平成26年8月30日(土曜日) 13:30～16:00(受付13:00～)
7. 内容 13:30～ 映画上映 「ぼくはうみがみたくなりました」  
15:30～  
講演会 「自閉症の彼が教えてくれたこと～ぼくうみとの出会い～」  
講師 山下 久仁明 氏(映画「ぼくはうみがみたくなりました」脚本家)  
16:00 閉会
8. 場所 名寄市民会館 大ホール(名寄市大通北1丁目)
9. 参加対象 どなたでも参加いただけます。
10. 参加費 無料
11. 申し込み 不要  
※ 事前に参加が分かっている方、託児を希望される方は**8月18日(月)**までに電話、FAX、E-mailなどで名寄市社会福祉協議会にお申し込み下さい。
12. その他 ・映画には日本語字幕及び音声ガイド、その他の進行には手話及び要約筆記通訳がつきますのでお気軽にご参加下さい。  
・保育士による託児も行います。希望される方は申込み時にお申し付け下さい。  
・本事業には共同募金の助成金が役立てられています。

◆映画紹介

**ぼくはうみがみたくなりました**（2009年）

自閉症の青年と、少し人生につまり気味の看護学生が偶然から海に向かう旅に出てしまい、そこで様々な人々とめぐり会うハートウォーミングな人間ドラマ。「自閉症」という言葉だけが一人歩きし始めている昨今、実際の症状や接し方等、ほとんど知られていない障がい者に焦点を当て、ひとりの自閉症の青年を取り巻く人々の人生や心の成長を、時にユーモラスに、時に厳しく、そして温かく描き出した秀作。

主人公・明日美に、映画「いま、会いにゆきます」での瑞々しい存在感が話題を呼んだ大塚ちひろ（映画初主演）。新人・伊藤祐貴は、500人以上のオーディションから選ばれ、自閉症の青年という難役を見事に演じ切った。その青年の母親役として実力派女優・石井めぐみ、物語のキーパーソンとなる老夫婦役を名優・秋野太作、大森暁美が演じ、ゆったりとした空気感を映画に吹き込む。そして、障がい者の“きょうだい”としての高校生役を演じた若手・小林裕吉&松嶋初音の等身大の演技にも注目。

（映画パンフレットより）

◆講師紹介

**山下 久仁明 氏**（ぼくはうみがみたくなりました脚本家）

1960年、東京生まれ。

日本大学芸術学部放送学科卒業／日本シナリオ作家協会会員

しょうがい児の放課後活動の場「フリースペースつくしんぼ」（東京都町田市）代表

以下、山下久仁明氏の映画への想い……

「ぼくうみ（ぼくはうみがみたくなりました）」を書いたのは、自閉症児の父親である脚本家として、自閉症を描いた作品を映画にしてみたかったからです。原作として小説を書き、いずれは映像化……とずっと思っていました。そして実際、2006年に入った頃から、映画化に向けての取り組みをはじめていました。

ところが、3月28日のことでした。地域の中学校の障害児学級を卒業し、4月からは養護学校の高等部に入学するはずだった長男・大輝（ひろき）が散歩の途中にJRの線路に入ってしまう、電車に接触して命を落としてしまいました。

15歳でいなくなってしまった大輝は、どちらかというと重い方のタイプの自閉症でした。

私は今、大輝が「15年間ありがとう。いっぱい世話をかけたけど、これからはもういいから、ボクのために映画をつくってよ」と背中を押してくれていると信じ、映画を作りました。

**【お問合わせ・お申込先】**

社会福祉法人 名寄市社会福祉協議会 地域支援係（担当：小笠原）

〒096-0011 名寄市西1条南12丁目 名寄市総合福祉センター内

TEL：01654-3-9862/FAX：01654-3-9949

E-mail：chiiki@nayoro-shakyo.jp